



年末も発表会やイベントで大活躍！

◆創造科学科2期生(1-8)の活動◆

12/5 創造基礎 A

「模擬投票」& 講義「自分の軸と政治」

本校同窓会館ゆ〜かり館において、模擬選挙を行いました。各班がそれぞれ政党になりきり、班から1名が模擬代表として演説を行いました。政党については、神戸市選挙管理委員会と相談し、現在国会内で政党要件を満たしている希望の党、自由民主党、日本維新の会、社民党、公明党、立憲民主党、日本共産党(発表順)に班分けをしました。事前学習で、各党について模擬選挙推進ネットワークからいただいた資料やHPから調べて、綱領・経済政策・福祉政策・外交政策・その他の主張の項目についてまとめた「政党カタログ」を作成しました。そのカタログと模擬代表の演説をもとに評価を行い、休み時間を利用して模擬投票を行いました。模擬投票の後、NPO 法人 Youth Create 代表 原田謙介氏に「あなたの軸と政治」をテーマに講義をして頂きました。講義の中で、選挙とは政治にアクセスするひとつの方法・通過点であり、国民ができることのすべてではないといったことや、「政治の」若者離れについて、また話し合いによって社会の中の様々な立場の人に視点を移すことの大切さを教えていただきました。

《生徒の感想》

今回は原田先生に貴重な講義をして頂き、大きく2つのことを学びました。1つは、1つのことでも色々な視野で物事をみるということです。例えば新聞やニュースなどの見出しに「若者の政治離れ?!？」などと書かれますが、これは「政治の若者離れ?!？」という違った見方をすることで、この言葉は新たな意味を持ちます。また「投票で決め

ること」「次に決める機会があること」というとらえ方を変えて違った角度から物を見ることです。2つ目は政治は自分たちによって動かすことができ、当たり前のことではないということです。これは民主主義を新しくしていくという考え方も同じだと思います。選挙から始まるのではないということに基づいて、これから18歳が近づくに伴って当たり前を当たり前でない政治として考えていきたいです。



12/15 RRE「外国人留学生との交流会」

本校同窓会館ゆ〜かり館において、兵庫教育大学に留学している外国人留学生・教員研修生10名と英語を用いて交流会を行いました。お互いの自己紹介の後、生徒は「世界や日本における環境問題〜市民として何ができるか〜」をテーマにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、留学生には「自国における環境問題」というテーマで同様にプレゼンテーションをしていただきました。その後、お互いのプレゼンテーションを踏まえて、環境問題を解決するために何ができるか、というテーマでグループディスカッションを行い、その内容を班ごとに発表しました。最後に、フリートークと振り返りを行いました。留学生の出身国・地域は、イタリア、韓国、台湾、中国、フィジー、マラウィーです。



《生徒の感想》

We met some exchange students today. Today's purpose is to make a presentation about environment issues each other. I think our group could make a presentation better than before we make it in class. The countries which exchange students live in have some environmental issues different from Japan. I was surprised to hear it. Environment issues cannot be solved by one country. So, I think other countries should cooperate with each other to solve it. It was good that valuable experience was made.

創造基礎 B - 探究活動現状報告

～ 社会科学分野 ～

12/4 FW : 駒ヶ林漁業体験ツアー

長田区の駒ヶ林漁業会館において、「NAGATA おさかな天国プロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野3班が、「第3回 親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」の実行委員会に参加しました。長田区役所からまちづくり課の田中課長と長岡氏、小林氏、駒ヶ林浦漁業会の三浦氏、長田港の漁師の方々と一緒にイベント内容について検討しました。本校からはクイズ大会の問題について提案し、漁師の方々から意見をもらいました。また、生徒が前々回の実行委員会で提案した漁師メシは、チヌ(クロダイ)を主な具材とした「漁師汁」を次回実行委員会で試作することが決まりました。



《生徒の感想》

まず、私たちが提案した、丸バツクイズのクイズについて、意見・クイズの追加をしていただきました。そして、私たちが提案したものと合わせて？問のクイズが出たので、その中から？問ほど選び、次の会議で報告することになりました。また、前々回のフィールドワークでの宿題だった、オリジナルキャラクターを発表しました。そして、ポスターとチラシに載せていただけることになりました。提案し

たときは紙に手書きだったので、ポスターを各小学校に配布する予定の日に間に合うように、絵をデータにして長田区役所の方に送ることになりました。これから、私たちが作ってきたものが形になっていくのが楽しみです。

12/8 FW : r 3訪問

長田区六間道商店街のレンタルスペース r 3において、「人と人をつなぐインスタスポット」をテーマに研究している社会科学分野6班が、代表の合田昌宏氏からお話を伺いました。

《生徒の感想》

今回のフィールドワークではカフェ「r 3」に伺い、合同庁舎の仮囲いに置くインスタ



スポットの今後の製作予定を中心に話し合いました。インスタスポットを手形で作ることに決まり、また手形は長田区内の幼稚園、小学校、そして兵庫高校から集めることになりました。この活動自体が当初よりとても大きなものになってきており、インスタスポットも私たちだけでなく文字通りみんなの手で作りに上げていきたいと思っています。

12/12 FW : 神楽保育園・真陽小学校訪問

「人と人をつなぐインスタスポット」をテーマに研究している社会科学分野6班の生徒4名が、インスタスポットに使用する児童の手形の協力依頼をするために神楽保育園と真陽小学校を訪問し、説明を行いました。後日、手形の回収を行いました。



12/15 FW : 長田商店街理事会参加

長田神社前商店街事務所において、「どんどん広げろ！長田商店街イイとこプロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野2班が理事会に参加しました。以前の3回にわたる商店街店舗でのフィールドワークを通して、出てきた課題や提案を発表しました。その後、食べ歩きマップ作成について話し合いました。今後は頂いたアドバイスをもとに長田神

社前商店街食べ歩きマップを作成し、本校生徒に配布したり各店舗に置かせていただいたりして、サービスを広めていく予定です。

《生徒の感想》

僕は先日お店を見学させていただき、自分達なりに考えた各店舗の良い点・改善点を理事会に参加していただいたお店の方々に伝えました。改善点を伝えることで「良いアドバイスをいただきました。」とお店の方に言ってもらえたのでこれからまだ残っているマップ作り・配布などでPRしていけたらいいと思います。またマップを配布する際に、お店にマップを持っていったら何らかのサービスをしていただけるという案が出ているのでそのことも考えてマップを作り兵庫高校生に配布したいと思います。区役所の方々が行われるイベントも、長田神社を中心として開催されることになっていると聞いたのでその時にも商店街によりお客様が来られるように考えていきたいと思っています。

12/22 FW：「漁師汁」の試作・試食



長田区の駒ヶ林浦漁業会館において、「NAGATA おさかな天国プロジェクト」をテーマに研究している社会科学分野3班が、「第3回 親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」の実行委員会に参加しました。

長田区役所からまちづくり課の田中課長と長岡氏、小林氏、駒ヶ林浦漁業会の三浦氏、長田港の漁師の方々と一緒にイベント内容について検討しました。今回は、本校生徒担当のクイズの内容確認と、生徒が提案した「漁師汁」の試作・試食を行いました。漁師汁は、鯛とチヌの2種類を作りました。当日はチヌの漁師汁をイベント後に提供する予定です。

◆創造科学科1期生(2-8)の活動◆ 12/9 創造応用ILFW

「もっと知りたいイスラーム」参加

関西セミナーハウスにおいて、「拡散するテロ～ヨーロッパでなぜテロが起きるのか～」をテーマに研究している創造科学科1期生(2年)文系選択者の1名が、関西セミナーハウス活動センター主催2017年度開発教育セミナー第6回「もっと知りたいイスラーム～中東とヨーロッパの『今』から学ぶ」に参加しました。講師は同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授の内藤正典氏で、「ヨーロッパの移民社会」と「中東情勢と国際社会」について講義を受けました。第一次世界大戦後から現代まで中東をめぐる情勢の変化とヨーロッパにおけるムスリムのおかれる状況について詳しいお話を聞くことができました。



《生徒の感想》

今回のセミナーで驚いたのは、内藤先生がヨーロッパとイスラームの共存は不可能だと話されたことだ。まず、ヨーロッパの多くの国では保守派の政党が与党となり、極右といわれる政党も勢力を伸ばしている。こうした政党は、ムスリムに対してナショナリズムの視点から「出ていけ」という。これはヘイトスピーチだと僕は思うが、ヨーロッパにおいては差別ではないそうだ。世界に15億人いるムスリムのうちテロリストになる確率はとても低い。それが、母数が多いためにムスリムの多くが過激思想を持っているかのように思われ、ムスリムのイメージ悪化につながっている。イスラームとヨーロッパは互いに理解し合うことは不可能かも知れないが、内藤先生が示唆された通り、衝突を避けることなら出来るはずだ。そういった可能性も考えてこれから論文を執筆していこうと思う。

創造応用IS 探究活動(10回目)

【数学】 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授 稲葉太一氏にお越しいただきました。まずは将棋の勝率等についてのデータ解析については、王と

飛車角の位置が近ければ近いほど戦況が不利であるという格言から実際の棋譜を調べて勝率に影響しているかどうかの関係を調べていくことになりました。

「近い」ということの定義をどのようにするかがポイントであるとの指摘を受けました。また、記憶に関する研究では、記号と色のカードについての場所を記憶する実験について、見てもらう秒数と、記憶を維持する間にしてもらう作業の秒数を決めていきました。山登りや野球の研究についても様々なアドバイスをいただき、1月に向けて試行錯誤する準備が整ってきたようです。



[写真 左：数学 右：化学]

【化学】 本校化学教室において、化学を選択した生徒6名を対象に、神戸大学大学院理学研究科准教授 大塚利行氏を交えて、最初に研究の目的や流れを確認しました。前回の実験で気づいたように、塩橋の抵抗が大きいために溶液抵抗が大きくなっていることを改善した電池を考えた点を追求し、さらにできる限り大きな起電力を得られる泥を見つけ出したいと考えました。高い起電力を得るための電池を研究していくうえで、電極や回路を安定させて実験値を求めることが困難であり、そのために工夫することをまず最優先にしていくことにしました。

【物理】 ダイラタント流体班は、ダイラタント流体を滴下する際の高さを細かく変えて実験を繰り返し、クラウンができる境界を探る実験を行いました。砂時計班は、12月25日に行う中間発表に向けてデータの整理・分析をエクセルを用いて行いました。分析に用いる数式の理解や、データをどのように比較すれば的確に伝えられるのかを考えながら、作業を行いました。

【生物】 本校生物教室において、グリーンヒドラの捕食反応を測定する実験方法を再検討しました。前回の実験では、ヒドラにグルタチオン溶液を加えたことが刺激になって測定前に触手の収縮が起こっ

たり、ヒドラが流されて測定ができませんでした。また、アルテミアを与えた実験と比較をするために、アルコール処理したアルテミアを各グルタチオン濃度条件下で与える方法を考えました。今回はその予備実験として、アルコール処理したアルテミアをヒドラに与えて、触手の収縮が見られないことを確認しました。



[写真 左：物理 右：生物]

【都市工学】 本校コンピューター教室で、都市工学を選択した生徒5名を対象に、実施しました。5人のメンバーを3人・2人の班に分け、11月に実施した「景観写真の印象評価実験」データを、以下の2つの観点で分析する作業を進めました。①「統一感のある」印象の高い景観について、その構図を分析する。②「美しい」印象の高い景観について、その配色・色数を分析する。作業①については、3人の生徒で作業にかかり、「統一感のある」の平均ポイントが高い数枚の景観写真をピックアップし、構図の観点から共通する要素や条件の洗い出しを行いました。また、ペイントのアプリケーションを利用して、景観写真の加工を行い、より統一感のあると感じられる景観写真の作成にトライしました。アプリケーションの能力に限界があるので、生徒たちが「こうしたい」と考えるような加工を行うには、より高度な画像処理が行えるアプリケーションが必要になります。作業②については、2人の生徒が担当し、実験で用いた11枚すべての写真について、25×15の格子に分割し、それぞれのマス目に占められる主要な色の特定を行い、写真1枚につきどの色が何色ずつ用いられているかの洗い出しを行いました。作業はまだまだ序盤であり、この後どのように分析を進めるかが課題です。特に「美しい」印象を色数だけで分析で



きるのか、隣り合う色味との相性など配色との関係はどのように調査するのか、まだまだ未知数の部分は多いです。全体的な方向性としては、「構図」と「色」から、「美しい景観形成」への示唆を得て、そのモデルプランを提示していくという考え方で作業を進めていきます。

12/25 創造応用 I S 「1日オープンラボ」

創造科学科1期生(2年)理系選択者が、創造科学科2期生(1年)理系選択者の希望者を対象に、「1日オープンラボ ～先輩の研究を知ろう～」と題して、創造応用 I Sで行っている研究を見学してもらう企画を実施しました。2年生は1年生に研究内容を説明し、1年生はそれを聞いて来年度の研究選択の参考にしました。



グローバルリサーチ活動報告

◆グローバルリサーチ I (1年生)◆

12/11 講義「地元企業の海外進出」

本校同窓会館武陽ゆ〜かり館において、普通科グローバルリサーチ I 受講生(1年)33名を対象に、多文化共生センター兵庫の北村広美代表から「地域における多文化共生」をテーマに講義をして頂きました。在住外国人の現状と抱える課題についてお話をいただいた後、「多文化社会ニッポンの子どもたち」と題して、「外国にルーツがある子どもたちに何ができるか?」「どうやってそれを地域の人に伝えるか?」についてグループでワークショップを行い、発表を行いました。



12/23

ワンワールドフェスティバル for Youth 2017

大阪 YMCA において、「ワンワールドフェスティバル for Youth 2017」が開催されました。これは、高校生のための国際協力・交流 EXPO として西日本最大規模で毎年開催されているイベントです。関西

地域の高校生が中心となって、プログラムの企画や立案を担っています。本校からも多くの生徒が実行委員や、ボランティア、または発表者として参加しました。



《実行委員・ボランティア》

普通科グローバルリサーチ II 受講生(2年)の2名が実行委員を、1名がボランティアリーダーを務めました。これまで、月1~2回の実行委員会で企画を練り、イベントの当日を迎えました。実行委員を務めた本校生徒は、講演プログラム「子どもたちへの教育支援～途上国を救え～」を企画担当し、当日は司会およびパネラーとして講演に参加しました。また、創造科学科2期生(1年)10名、普通科グローバルリサーチ I 受講生(1年)25名が、当日の運営を手伝うボランティアとして参加しました。



《生徒の感想》

去年は当日ボランティアとして参加したワンフェスに、今年は実行委員として関わることが出来ました。実行委員として7月から準備を進め、なかなかうまくいかないことも多く苦労しました。兵庫が担当するプログラムでは、当初予定していた内容から2転3転し、最後の1週間まで調整を続けました。苦労も多かったですが、ワンフェス当日は、たくさんの方が私たちのプログラムに参加して下さい、心から頑張ったよかったです。そしてなにより私たちが楽しむことが出来たのが良かったです。去年はただ参加するだけでしたが、今回企画する側に回って、はじめて一つのイベントを作り上げる大変さや、難しさ、苦労や、達成感を味わうことが出来ました。今回のワンフェスに実行委員として参加することができ、とてもいい経験になりました。

今回僕は、8月からワンフェスのボランティアリーダーとして関わらせてもらいました。はじめの1

カ月は自分の役割も決まらず、正直苦勞しましたが、この12月に入ってからリーダーに一体感が生まれ、当日は責任をもって活動することができました。当日は全体の司会進行と音響を担当し、恐ろしく忙しい1日になったと思っています。今回のように、長い期間をかけて取り組んできたイベントは、達成感も段違いだなと感じました。この経験を生かして、将来いろいろところでリーダーシップを発揮できたらなと思います。

《プレゼンテーション1》

「紛争平和」をテーマに研究している普通科グローバルリサーチⅡ受講生(2年)11班の3名が、「ワンワールドフェスティバル for Youth2017」に参加し、講演プログラム「少年兵から何を学びどう動くか」のなかで、研究発表「子ども兵を増やさないために」を行いました。

《生徒の感想》

正直、最初は面倒くさい、なんでこんなことしなアカンのって思ってたけど、思っていたのとは全然違って、とても良い経験になりました。今回の発表のために、今まで研究していたのとは違う目線で、調べたものを発表しました。立命館宇治高校(立宇治)の人達と一緒にさせていただいて、アドバイスなどもいただき、これからの研究に役立てようと思った。立宇治の人達の中で、コンゴ民主共和国の少年兵という同じテーマにした班の発表が一番印象に残った。また、違うアフリカ地域の国々のことを発表しているところもあって、知れてよかったなと思う。私たちの発表に対する質問が、立宇治の人達から無かったので、少し悲しかったけれど、テラ・ルネッサンスの方からどんどん質問がきて、掘られまくったので、まだまだだなと感じた。“高校生のアイデアは1つのことでいっぱいになってしまう私たちにとって良い刺激になる”ということ、テラ・ルネッサンスの方が言っていたことで、私はやる気がでてきた。今までは、“何のためにしてるんやろう。将来別にこんなことせんし。”などと思っていたけど、これを聞いて、もしかしたら自分の提案したことが叶うかも、と思うとワクワクしてくる。だから、兵



庫のグローバルリサーチ(普通科)でのみんなの発表を1人でも多くの人々に聞いてほしいなと強く思った。すっごく良い経験になった1日でした。

《プレゼンテーション2》

創造科学科1期生(2年)の4名と、普通科グローバルリサーチⅡ受講生(2年)の3名の計7名が、プログラム「高校生生活動報告会①」のなかで、ベトナム研修旅行についての報告発表「私たちが見たベトナムの今」(30分・口頭)を行いました。



《ブース出展》

創造科学科1期生(2年)文系選択者11名が、本校における探究活動を紹介するブース出展を行いました。それぞれが取り組む研究についてまとめたA4版ポスターも持参し、訪れた人に説明しました。

他にも、様々な活動や発表会に参加!

12/6 セミナー「わたしたちの難民問題2017」参加

神戸勤労会館において、普通科グローバルリサーチⅠ受講生(1年)の3名と創造科学科2期生(1年)の6名の計9名が、「わたしたちの難民問題2017」に参加しました。「難民認定申請者の支援活動」というテーマで、RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク共同代表の田中恵子さんからお話を聞くことができました。



《生徒の感想》

今回、実際に難民認定の支援活動をしていらっしゃる方から直接話を聞くことができ、とても良い機会でした。私は、「難民」というのは認定というのを必要とせず自己の判断で決まるものだと思っていた。でも、1人の人が「難民」となるには長い年月がかかることが分かりました。今日、世界的にも難民の受け入れの割合が高い国が少ないそうです。そのうえに難民になるまで長い年月がかかるとなると困っている人たちにとってはつらいと

思います。だから、今後日本も含め保護法などを改めて、難民を受け入れやすい環境をつくるべきだと思います。

12/14 第8回高校生鉄人化まつり実行委員会(3)

長田区役所大会議室において、第8回高校生鉄人化まつり開催に向けた第3回実行委員会が開かれ



ました。今回は、鉄人化まつりのポスター原案とシンボルマークを検討しました。神戸野田高校の漫画動画研究部の部員が作成した候補作から、今回のテーマである「長田にかけの虹の橋」がもっとも表現できるものを選びました。また、実行委員企画や屋台についても検討しました。次回会議は1月22日(月)を予定しています。

12/20 神戸大学ジャンモネ COE ミニシンポジウム

神戸大学医学部会館シスメックスホールにおいて、創造科学科1期生(2年)40名、創造科学科2期生(1年)4



0名、グローバルリサーチI受講生(1年)33名と普通科生徒の参加希望者3名を対象に、神戸大学ジャンモネ COE 主催のジャンモネ COE 高校生向けミニシンポジウムが実施されました。各講演の質疑応答では、生徒から様々な質問があり、たいへん貴重な機会となりました。講師と講演のタイトルは以下のとおりです。

～講演タイトル～

神戸大学大学院国際文化学研究科准教授 近藤正基氏

「ドイツの移民・難民政策」

神戸大学大学院農学研究科教授 ツェンコヴァ・ルミアナ氏

「目に見えない力で水を覗く」

《生徒の感想》

最初の講義ではドイツの移民・難民についてたくさん話を聞くことができた。ドイツ政府が難民の受け入れに積極的なのは知っていたが、その理由に第二次世界大戦のナチスなど時代的な背景があるのだ

と知って、とても興味を持った。また、ドイツはあまり国民を信用しない民主主義であるというのが印象に残った。2つ目の講義では、目に見えない近赤外線を使って、水の状態を見ることができるという話で、それにより生物の健康状態を知ることができるということで、とてもおもしろそうだと感じた。それを将来、人間の病気の早期発見に役立てることができれば、これからの医療は大きく発展するのではないかと思った。

12/23 甲南大学リサーチフェスタ

甲南大学岡本キャンパスにおいて、創造科学科1期生(2年)の1名と、創造科学科2期生(1年)自然科学分野3班と6班の8名が、同大学主催「リサーチフェスタ」に参加し、大学生とともに研究の成果を発表しました。自由討論形式のポスターセッションを2回(1回目20分・2回目30分)行い、2回目の発表は、大学教員・高校教員から構成された審査員による審査の対象となりました。それぞれの発表テーマは以下のとおりです。

～発表テーマ～

創造科学科1期生(2年) 栗山拓海君

「拡散するテロ ～フランスにおけるテロ対策～」

創造科学科2期生(1年) 自然科学分野3班

「鳥と果実の関係 ～柿を食べにくる鳥から～」

創造科学科2期生(1年) 自然科学分野6班

「環境 DNA による外来プラナリアの分布調査

～目指せ! プラナリアハンター～」

審査の結果、3班の生徒はビッグデータ賞(リサーチフェスタ審査員セレクト)を受賞しました。また、ポスターセッション後に、ポスター発表についての“気づき”をお互いに共有するグループワークが行われ、大学生や他校の生徒と交流し、“良い発表とは何か”についての学びを深めることができました。



《生徒の感想》

自然科学の班で初めての発表でした。今回はポスターセッションということで、大学生の方、大学や他校の先生から生のアドバイスを頂くことができました。研究のさらに深められるところや、発表のコツなども教えて頂きました。また、他の学校の発表も見学することができ、そこには同じ高校生とは思えないぐらいレベルの高いものも多くて驚きました。周りの反応を見ながら話す話し方など学ぶことは多かったのですが、これからの機会に大いに活かしていきたいです。

12/23「平成29年度中谷医工成果発表会」

広島国際会議場において、公益財団法人中谷医工計測技術振興財団による「平成29年度中谷財団科学教育振興助成 成果発表会（西日本大会）」が開催され、創造科学科2期生（1年）自然科学分野1班が参加しました。この発表会では、西日本各地の小・中・高校生が取り組む研究の発表が行われ、本校生徒は、「大学院生と学ぶ自然科学探究活動Ⅰ『ミクロの世界！高分子～テーピングに見る高分子～』」というテーマでポスター発表を行いました。また、広島大学学長による特別講演「科学と平和」を聴講しました。



《生徒の感想》

平和学習では、原爆ドームの前にいた、ボランティアのガイドの方にお話を聞きました。内容は、今まで習ってきたことよりもさらに深いところの話でした。驚きばかりでした。本当に核兵器は使ってはいけないと実感しました。そのボランティアの方に、「これからあなたたちのような若い世代が、選挙権を駆使して、日本が間違った方向に行かないようにして欲しい。」という言葉がすごく心に残ります。選挙は、日本の未来を決めるもの、それは自分の未来にも関わってくるものだから、真剣に考えるべきだと実感します。発表はすごく刺激を受けました。東

大、神大、国際留学センターなどの来賓の方々、小学生から高校生までの学生たちとその先生。多くの方から質問やアドバイスをいただくことができ、本当に勉強になりました。特に、広島国泰寺高校の生徒の皆さんからは、同じ高校生とは思えないほどの、意見をいただけて、本当に参考になりました。特に聞かれたのは動機についてで、私たちの発表は動機を伝えきれていなかったもので、そこは課題だと分かりました。また、仮説もきちんと記載できていなかったため、全体としてロジックが、曖昧だと分かりました。さらにグラフや表の見せ方にさらに工夫ができると思います。自分たちだけでは、気づけないことも気づけたので、意義のある1日を過ごせたと思います。

12/24 FW「親子ベトナム教室クリスマス会」

神戸市立二葉地域福祉センターにおいて、普通科グローバルリサーチⅡ受講生（2年）の1名が親子ベトナム教室クリスマス会に参加しました。



大阪から新しい総領事が来られ、兵庫県、神戸市、NPO関係者も参加されていました。ベトナム人コミュニティが少しずつ地域に根付いている様子をうかがうことができました。